

小松島港における市民参加型再活性化施策に関する考察

徳島大学大学院 学生員 ○山本 道広
 徳島大学 正会員 山中 英生
 日本建設コンサルタント 正会員 澤田 俊明

1. 研究背景

近年、高速道路網の整備など交通体系の変化に伴い、かつてフェリーが就航していた「みなと」においては、旅客海上交通の需要が低下し、フェリーが撤退するなど、港湾機能は遊休化を余儀なくされるケースが少なくない。本研究においては、本四海峡ルートの開通等に伴ったフェリー撤退後の港湾機能の転換状況をもとに、地方都市において港湾地区再活性化を目指した小松島港本港地区での取り組みを分析し、港湾機能再生のあり方の知見を得ることを目的とする。

2. 港湾空間における機能とその再編

一般にフェリー港から残された港の陸域は、まとまった空間利用が可能である特性がある。港の物流機能を活用した産業立地の場となり得る特徴があり、企業誘致などによる再活性化への取り組みが見られる。また臨海部であることから景観などの優れた特性を生かし、交流空間、地域づくりの場を目的とした転用がなされている。表 - 1

しかしながら、これらの転用方策においては全ての事例が地域の再生に結びついているとはいえない。また地方都市にとって、現在の経済情勢においては、企業の誘致など民間の活力を利用する方策も困難であり、従来型の既存の機能転換方策においては、地方都市における地域の沈滞化の解決に成果を挙げるには、その限界が見られる。ここに港の機能転換を地域活性化のための手段となる、新たな港湾空間利用の方策を創出する必要があるといえる。

表 - 1 航路休止後の転用状況

	航路休止後の利用形態
東神戸	大型ショッピングモール
大磯	電機メーカー工場
西宮	物流センター
津名	バスターミナル
志筑	商業店舗利用
阿那賀	観光ホテル
鳴門亀浦	美術館駐車場

表 - 2 小松島港本港地区活性化年表

11.2.18	第1回 小松島港本港地区等活性化検討会
11.3.8	第1回 小松島市本港地区等活性化懇話会
11.4.5	南海フェリー 小松島-和歌山航路休止
11.8.27	第2回 小松島市本港地区等活性化懇話会
11.10.2	プレ小松島港ワークショップ
11.10.25	第2回 小松島港本港地区等活性化検討委員会
11.11.6	第1回 小松島港ワークショップ
11.12.11,13	第2回 小松島港ワークショップ
12.1.28	第3回 小松島市本港地区等活性化懇話会
12.2.9	第3回 小松島港本港地区等活性化検討委員会
12.2.26	第3回 小松島港ワークショップ
12.3.23	第4回 小松島港本港地区等活性化検討委員会
12.4.23	第4回 小松島港ワークショップ
12.4.28	第4回 小松島市本港地区等活性化懇話会
12.6.10	第1回 小松島港PCM
12.7.16	第2回 小松島港PCM
12.7.21	小松島港まつり&フリーマーケット
12.7.21	フリーマーケット
12.8.30	第1回 小松島港利用企画調査委員会
12.10.18	第2回 小松島港利用企画調査委員会
12.10.29	フリーマーケット・北海道産直市場
12.11.17	第3回 小松島港利用企画調査委員会
13.1.10	第4回 小松島港利用企画調査委員会
13.1.10	旧南海フェリーターミナルビル使用試用期間開始 ～3. 10
13.2.1	第2回 小松島港長期構想検討委員会
13.2.16	第5回 小松島港利用企画調査委員会
13.3.8	第3回 小松島港長期構想検討委員会
13.3.20	フリーマーケット
13.4.11	第6回 小松島港利用企画調査委員会
13.5.10	第1回 ターミナルビル利用検討懇談会
13.6.6	第1回 小松島港利用企画調査委員会
13.7.13	第2回 ターミナルビル利用検討懇談会
13.8.24	第1回 NPO設立準備委員会
13.8.29	第2回 小松島港利用企画調査委員会
13.9.4	第1回 港まちづくりFantasyHarborこまつしま有志の会
13.9.22	第2回 NPO設立準備委員会
13.10.29	第2回 港まちづくりFantasyHarborこまつしま 有志の会
13.10.27	フリーマーケット
13.11.14	第3回 港まちづくりFantasyHarborこまつしま有志の会
13.11.28	第3回 NPO設立準備委員会
13.12.13	第3回 小松島港利用企画調査委員会
13.12.13	第4回 NPO設立準備委員会
13.1.8	第5回 港まちづくりFantasyHarborこまつしま有志の会
13.1.26	港まちづくりFantayHarborこまつしま設立総会

3. 小松島港本港地区における再活性化への取り組み

平成11年4月の南海フェリーの航路移転により、小松島港の旅客ターミナル施設が遊休化することとなった。これを機に小松島港本港地区の沈滞化が一層進行することが懸念され、行政（国、県、市）専門家、市民が参加した本港地区再活性化へ向けた取り組みが始まった。組織の流れを表 - 2 および図 - 1 に示す。

キーワード：市民参加、港湾空間、ワークショップ

連絡先：〒770-0814 徳島市南常三島 2-1 TEL 088-656-7578 FAX 088-656-7579

1) 平成11年度の取り組みとしては、小松島港本港地区活性化調査において「小松島港本港地区等活性化検討会」が設置され、地元関係団体を集め、活性化に向けた意見交換を「小松島港本港地区等活性化懇話会」が設けられた。さらには地元市民よりの情報抽出、意見集約を目的とするワーキンググループの活動として「小松島港ワークショップ」が計5回開催された。ワークショップで出された成果は検討会に報告され、本港地区の整備イメージが関係者の間で共有化された。

2) 平成12年度は、前年度の「小松島港本港地区活性化調査」において、市民、行政、専門家などが参加したワークショップを軸に、本港地区等の活性化に向けた整備計画が策定された。その中では旧南海フェリーターミナルビルの有効活用についても、その基本的な考え方と利用の方向性が示された。その前年度のワークショップの成果などを踏まえ、PCMワークショップが開かれ、旧南海フェリーターミナルビルの利用規則を暫定的に定めた上で、社会実験的イベントを開催することを通して、各市民団体や、民間企業などの具体的利用ニーズを明らかにしていくとともに、その後の管理・企画運営面などに関わる課題整理を行うことを目標とすることが確認された。ここに「小松島港利用企画調査委員会」が設置された。また平成13年1月から3月までの3ヶ月間「フェリーターミナル使用試用」として貸し出しを行い、市民団体等によるフェリーターミナルにおける高いニーズの把握がなされている。一方、民間企業の利用ニーズにおいても調査検討されているが、これについては利用ニーズがいくらか把握できたものの、利用の条件面等の折り合いが難しいことが確認されている。さらにワークショップで出た要望の中でも、最も早期実現性の可能性があると考えられた「フリーマーケット」が市によって主催され、多くの出店および来客があり大きな成果を収めている。

3) 平成13年度においては「小松島港利用企画調査委員会」は継続され、ターミナルビルの利用の内容と、利用のための受け皿組織などについて検討が進められた。12年度のターミナル試用開放による調査結果より、利用ニーズの高さが確認された為、フェリーターミナルビルを一般開放することにより市民利用を促進させることを目標にした。本港地区及び周辺地区を活性化する組織としてはNPOを設立するものとし、同時にフェリーターミナルの管理をNPOに業務委託することとした。これにより、この年8月「NPO設立

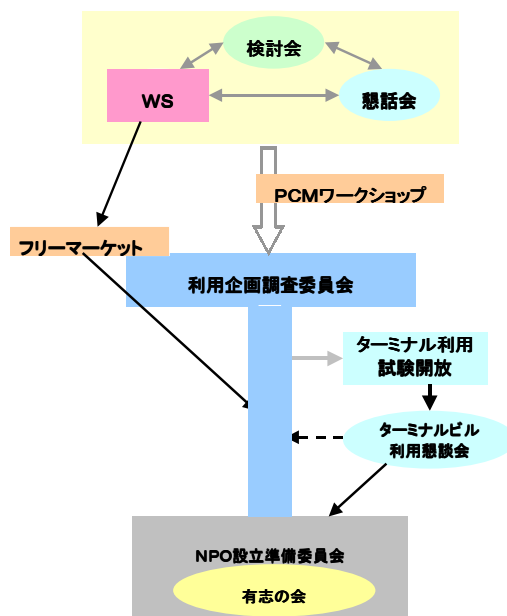


図-1 小松島港本港地区活性化取り組み組織系図

準備委員会」が設置された。さらにNPO設立後においても組織の一員として携わっていくスタッフにより「港まちづくりFantasy Harborこまつしま有志の会」が組織され、平成14年1月26日をもって設立総会を迎えるに至った。

なお、平成13年8月、県の徳島小松島港の港湾計画改定において、旧南海フェリーターミナル周辺が、「ふ頭用地」から「交流拠点用地」に変更されている。本来ふ頭用地においては県条例により物品販売などが禁止されているが、交流拠点用地に変更されたことから弾力的な運用が可能となった。平成12年度までの取り組みを受け、活性化活動における物品の販売などにも道筋が開かれたことは市民参加型で進めてきた功であると言える。

4. まとめ

小松島港本港地区においては港の機能転換方策を「市民参加型」で地域活性化施策を進めてきたことにより、旧フェリーターミナルを市民による公共利用とフリーマーケットなど地域振興のイベントを行うなど「公共利用&地域振興型」を目指すこととなった。ここに「市民活動の場としての港湾空間利用」といった新しい転換の可能性が示されたといえる。今後、NPOにより管理運営がなされることとなったが、NPOが自立した組織として活動を継続できるか、これらの活動に対する行政からの支援のあり方などが今後の課題であると考えられる。